

定期上映会 戦傷病者の証言～結核編～

結核に肺を冒され、長期間にわたって苦しみを抱えてきた戦傷病者の証言映像を上映します。

上映場所：しょうけい館 1 階 証言映像シアター

上映期間：2022 年 11 月 8 日（火）～12 月 4 日（日）

12 月 10 日（土）～12 月 27 日（火）

上映時間：10：00～17：00

終戦から始まった 30 年の闘い～銃創と結核～

毎時 0 分
より上映

昭和 19 年、現役兵として中国山東省に出征し、戦地で終戦を迎える。終戦後にもかかわらず八路軍との戦闘に巻き込まれ受傷する。復員後、辛いリハビリを経て就職するものの昭和 32 年、戦時中に患った胸膜炎が悪化して肺結核を発症、60 歳まで闘病生活を送る。働き盛りの頃は病との闘いであった。

終戦から 30 年以上に亘り、傷と病による苦しみを乗り越え「よく生きてこられた」と自身の半生を振り返る。

すべてめぐり合わせと思って

毎時 13 分
より上映

19 歳の時に肺結核を患い咯血。療養生活の最中、徴兵検査を受け乙種合格。昭和 16 年に一度目の召集を受けたが、即日帰郷。快復し昭和 17 年から教員となったが、昭和 19 年 6 月に二度目の召集を受ける。今度は結核であることを隠して入隊。直ちに満洲に送られたが、到着した翌日に受けた検査で結核が判明したため、すぐに入院を命じられ、青森の療養所で療養中に終戦を迎える。結核であることを隠してまで入隊を希望した、戦争中の療養者の心の苦悩を語る。

戦病者として生きる

毎時 35 分
より上映

14 歳のとき、海軍少年兵を志願。昭和 18 年 9 月、横須賀海軍通信学校に入校。巡洋艦高雄に乗艦、レイテ沖海戦へ。シンガポールの海軍第 10 方面艦隊第 10 通信隊に転属、胸の病気を患う。戦後、胸の病気が再発し、国立岐阜療養所に入院。診断は「肺結核」、肋骨切除の手術を受けた。

- ◆上映時間以外でも、情報検索機にてご覧いただけます。
- ◆団体プログラムにより変更となる場合があります。